

第181回 太陽が丘観察会 ～自然林を残す都市公園

日時 2020年6月21日(日)

場所 太陽が丘

天候 晴れ

参加者 一般38名 (内子供4名) スタッフ18名 合計56名

コロナの関係でなかなか観察会ができない状況が続いていましたが、なんとか3か月ぶりに開催することができました。受付前にアルコール消毒を行い、マスクを着用したうえで、3グループに別れて観察を行い、大人数が密集するのを避けるため、店開きは行いませんでした。

入り口付近の木々にマツゲゴケがあり、「見えた見えたピッピと針みたいのが」と参加者の皆さんは熱心に観察されていました。少し歩くとアカメガシワの木があり、日当たりの良いところに生える陽樹であること、雄株と雌株があること、新芽がスタンプになることなどを説明しました。アカメガシワについては知っていても大きな木を見るのは初めてだという方もおられました。

最初のポイントでは「タンポポクイズ」を行いました。花の付き方や綿毛との位置関係、根の形等が異なる4枚のイラストから正しいタンポポを選ぶのですが、私のグループは優秀で全員正解でした。ブタナの観察を行うために用意されたクイズだったのですが、下見で沢山見られたブタナの黄色い花はほとんど刈られて残っていませんでした。



3つのグループに別れて観察です

山道を登り、少し癖があるが甘酸っぱいやまももの実を食べ休みした後、2つ目の説明ポイントではクリの説明を聞きました。縄文時代から現在までの使用用途や分布等について、愛媛では大粒の栽培品種があること、指導員が子供のころ母の目を盗み、油の中に栗を入れてしまったエピソード等面白い話がたくさん聞けて参加者の皆さんも笑顔でした。



アカメガシワ(雌花)

昼食は広場で散らばりつつ、横並びで取りました。サラサラと気持ちいい風が木の葉を揺らしていました。マスクと帽子を外すと籠った熱気が逃げ、生き返る様でした。店開きが無い分時間を持て余したのか子供たちは広場を走り回っており、その様子を微笑ましく思いながら眺めていたのですが、追いかけてこに自分も加わるように誘われ、息も絶え絶えになりながらこの小さい体のどこにそんな元気があるのかと感心していました。一緒に遊ぼうと誘ってくれるほど私を身近な存在に感じてくれているというのは本当に嬉しかったです。



タンポポクイズ+ブタナ

昼食の後、ヒメジョオンとハルジオンについての説明がありました。漢字では姫女苑、春紫苑と書くという説明を受けて、「漢字を聞いたら覚えやすい」との声が聞かれました。カタカナより漢字で書かれていた方が、名前の意味や由来、区切り方等を認識しやすいのかもしれませんが。実物は広場には無かったです。

が、丘を下ると咲いている場所がありました。
実際に触り、特徴を確かめ、参加者の間で春か姪か議論が繰り広げられていました。

自粛続きの毎日でなかなか他人と顔を合わせる機会も少なく、久しぶりに会えてもマスクや帽子で顔が見られないのは寂しいと感じている人も多かったと思いますが、皆さんきちんとマスクをし距離を取る自衛ができていて素晴らしいなと思いました。ただ、これからどんどん暑くなる中、マスクを着けたまま歩くと体調を崩す方が出てきてもおかしくないので熱中症についても十分に考慮する必要があるなと感じました。

(辻)



ヤマモモ



クリ、アベマキ、クヌギ葉っぱ比べ



カタツムリみつけたよ



クリ



ハルジオンとヒメジョオンの説明



ヒイロタケ



少し離れ離れの観察会

たくさんの樹木を観察できました



ヒメコウゾ



サカキ



ツクバネウツギ sp.



ヤマウルシ



イソノキ



コバノガズミ



トサミズキ



シャシャンボ



ムラサキシキブ